

移民の歴史とスポーツ
The immigrant's history and sports

1K06B125-0 反町 一輝

指導員教授 主査 寒川 恒夫 先生 副査 岡 浩一郎 先生

序章 私が日々生活している群馬県で苦しんでいる人がいるというのは、あってはいけないこと。現状を受け止めるということは大事なことだ。私の心が動かされたのは大学入学する前の長期休暇のときに観た、あるドキュメンタリー番組だった。ではなぜこのようなことが起きるのか。なぜたくさんの日系人が日本に出稼ぎにくるのか。日系人の歴史やスポーツについてこれから述べたいと思う。

第1章 日系人の移民と代表的な移民船について歴史をたどる。最大の移民受け入れ国はアメリカであり、その数は1820年から1920年までの100年で約3300万人とされている。19世紀半ばには黒人奴隷が解放されると中国やインドから労働者を雇い入れ、不足する労働力をおぎなったとされている。代表的な移民船にはメインフラワー号や笠戸丸といった船があり、移民の人々には重要な役割を果たした。

第2章 日系とは、日本以外の国に移住し当該国の国籍または永住権を取得した日本人、およびその子孫のことである。日本人の海外移民は、第二次世界大戦以前は一時的な出稼ぎの要素が強くなった。第二次世界大戦直後には沖縄等の戦争の傷跡の深い地域から南米に移民する人が多かった。しかし近代、日系人社会は、19世紀末～20世紀初頭に移民した所では3世・5世が、戦後移民した所でも2世・3世が中心世代となってきた。国籍についても、生地主義の国で生まれた者は、両親のどちらかが日本国籍を保持している限り日本と出生国両方の国籍を持つ事ができる。

第3章 日本からの移民は戦前に海外へ出稼ぎで行った人と戦後に行った人がいた。第3章では移民した人々の苦労したことやスポーツのことを書きたいと思う。北米移民や南米の移民の違いなど、移民の増加などについて述べている。ブラジルの日系社会では、当時「勝ち組」と「負け組」の抗争が繰り広げられた。日本人移民および日系ブラジル人社会の分裂は、大きな悪影響を残すこととなった。スポーツでは、2006年のワールドカップの出来事や選手の思いなどを述べている。スポーツを通じて移民の現状なども述べて

いる。

第4章 ブラジルの経済が再び活況を呈している現在でも、日系ブラジル人の日本への出稼ぎは多く、現在日本に滞在する日系ブラジル人は約30万人以上とされる。日系ブラジル人による日本への出稼ぎ者の増加に伴い、「出稼ぎ」という言葉は「Dekassegui」と表記され、ポルトガル語でも通用するようになった。日本での問題も多々見受けられ、子弟の就学問題や差別など国際問題に関わる事も多くなっている。中でも近年増えているのは、在日ブラジル人による犯罪だ。しかしこの犯罪は差別から起こるものと考えられている。

第5章 特定非営利活動法人（NPO法人）など支援団体も研修を実施、就職を後押しする。介護職は今も人手不足である。そんな状況で介護分野に関心を示しているのが製造業で失職した日系ブラジル人だった。NPO法人も就職を後押ししている。三重県鈴鹿市の愛伝舎は国際協力機構（JICA）の委託を受け、四日市市のユマニテック福祉専門学校と提携し今年7月から3カ月間、日系人向けの介護研修を開いた。日系人に対して民間団体も全面的にサポートしている。

結章 一番重要な事は貧困差だ。この貧困差に耐え切れず日系人ということを利用して日本に渡る。日系人の努力も皆にわかってもらいたいし、特別な目で見てほしくないとは願う。共存してともに生活していきたい。この論文を読んで日系人の歴史と現在の現状を知ってもらいたい。彼らは生きるために自らの土地や家売り異国の地へ渡った。旅行に行く気分では無い。苦しんで生き抜いて頑張ったことを知って理解してもらいたいと思う。常に平等な社会を築かなければいけないのだから。